

# アユ仔稚魚の食性について

奥山芳生

両側回遊性のアユは本県の内水面漁業において重要な魚種の一つである。アユはその一生の約半分にあたる仔稚魚期を海で生活するが、本県においてはこの時期の生活史については十分な研究がなされていない。そこで海で採捕されたアユについてその胃内容物を調べることによってその生活史の一端を明らかにしようとした。

## 方 法

供試したアユ仔稚魚は1998年2月5日に湯浅湾で採捕されたもの58尾を10%ホルマリンで固定後、体長、体重の測定を行い、胃内容物を摘出した。胃内容物はその重量を測定後、同定を行い、各餌料生物の出現頻度(%)を「(餌料生物摂餌固体数/全調査固体数)×100」で表し、胃内容物重量指数は体重当たりの百分率「(胃内容物重量/体重)×100」として求めた。また、体長と胃内容物重量との関係も求めた。

## 結果および考察

アユ仔稚魚の胃内容物中の各餌料生物の出現頻度は表1に示したとおりである。出現頻度で一番高かったのは橈脚類で調査した全てのアユの胃から出現した。続いてヤムシ類(72.4%)、ヨコエビ類(43.1%)、長尾類(36.2%)の順であった。このことから、この海域のアユは橈脚類やヤムシ類を主に摂餌していることがわかったが、今回の調査ではその海域でのプランクトン組成を把握していないため、胃内容物で出現した橈脚類やヤムシは、その海域に大量にあったためにアユが摂餌しやすかったのかまた、選択的にそれらを摂餌したのかは不明である。

胃内容物重量指数の頻度分布は図1に示したとおりである。平均は1.89であり、全体の98%が指数3.5未満であったことから、3.5がほぼ満腹状態であると思われる。

また、体長と胃内容物重量との関係は図2

表1 アユ胃内容物中の各餌料生物の出現頻度

分 類	出現頻度(%)
多毛類	6.9
二枚貝類のアンボ幼生	5.2
ヤムシ類	72.4
介形類	6.9
橈脚類	100.0
ヨコエビ類	43.1
ワレカラ類	3.4
アミ類	17.2
オキアミ類	10.3
長尾類(ミシス幼生含む)	36.2
短尾類のゾエア幼生	8.6
尾虫類	1.7
調査個体数	58

に示したとおりである。当然のことながら、体長が増加するにつれて胃内容物重量も増加する傾向にある。

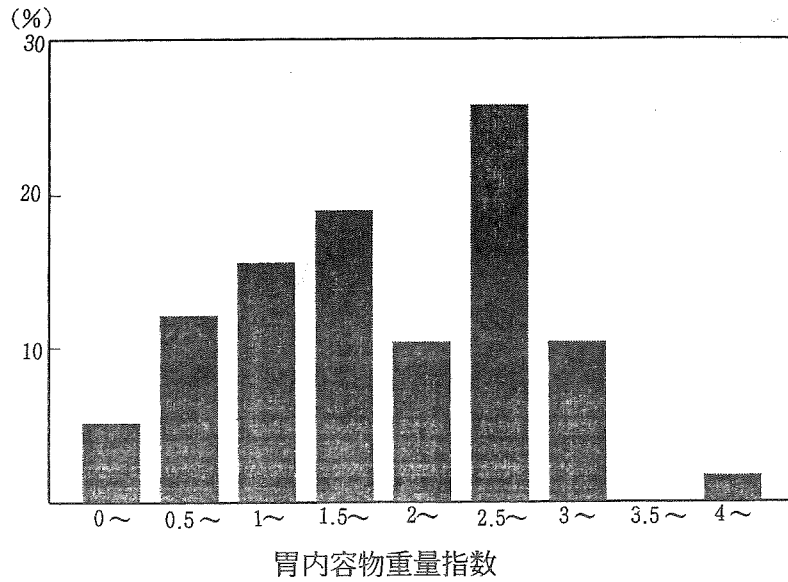


図1 アユ胃内容物重量指数の頻度分布

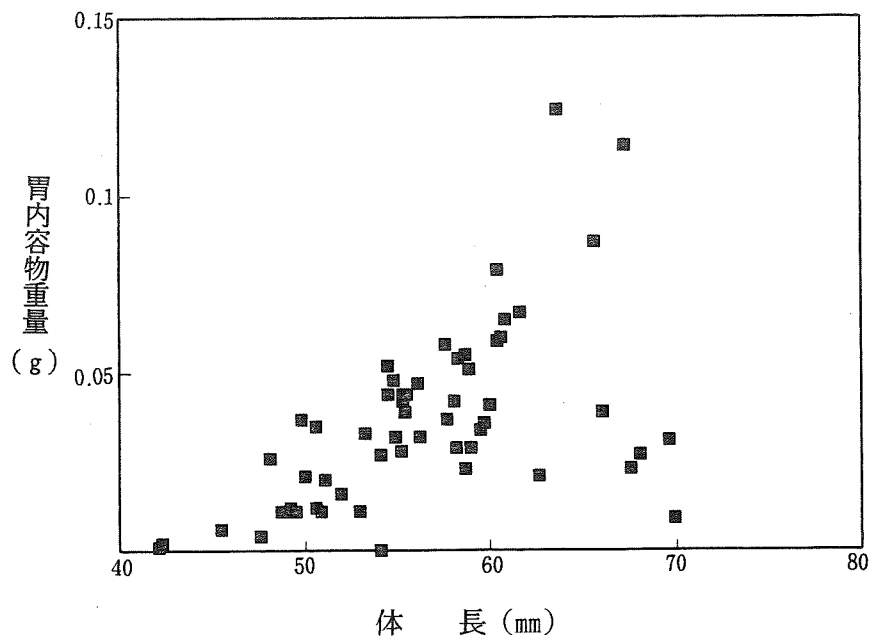


図2 体長と胃内容物重量との関係